

中野方地区防災計画

～ おきもりで 昔も今も 支えあい ～

基本的な考え方

「おきもりで 昔も今も 支えあい」

これは、平成26年に制作した「中野方ふるさとかるた」の一句です。

「おきもり」とは昔、出征や病気、葬祭等で田植えなどの遅れた家へ親戚や近所の人が行き、農作業を手伝うことをいいました。このように、作業が遅れている家、災害にあった家を助ける自発的な地域の支えあいは昔からあり、今の地域防災につながるものです。

自分の命は自分で守る「自助」、自分で行動できる人々が率先して助けていく「共助」、これらを行うためにはどうしたらよいか、また、自分たちの住んでいる地域では何ができるのかなどを考え、防災につながる行動を決定していく必要があります。

地区の特性

中野方町は、人口(平成27年4月1日現在)1,648人で前年度から49人減少し、昨年度に生まれた子どもはわずか3人でした。また、65歳以上の高齢者の方は616人で、前年度から22人増え高齢化率は37.37%、人口減少と少子高齢化が進む地域です。

面積は23.94km²、恵那市の最北部、笠置山の西北麓に位置し、木曾川流域の盆地に発達した集落で、標高1128mの笠置山をはじめ、権現山、高峰山、見行山など標高800m前後の山に囲まれ、中央を木曾川本流に合流する1級河川の中野方川が貫通しています。

また、赤河断層が恵那市街地の西方にある榎ヶ根峠付近から北西に向かい、木曾川を横切り、中野方川沿いに北西へ延び、赤河峠付近を経て、白川町白川口付近まで約23kmにわたって延びています。このため、断層崖となって急傾斜地が多く、土砂災害特別警戒区域等が数多く指定されています。

当地区で発生した大規模災害としては、平成23年9月20日の台風15号(中野方ダム雨量:総雨量308mm, 最大時間雨量50mm)による災害が記憶に新しく、町内全域519世帯1,757人に避難勧告が発令され、中野方コミュニティセンターと中野方小学校に避難所を開設、59名が避難しました。標高の高い山々に囲まれたすり鉢状の地域のため、雨雲の溜まりを作りやすく、短い時間で、一気に大量の雨が降り注ぎやすい特性があります。



防災活動の内容

(1)防災活動の体制及び内容

「自分たちの地域は自分たちで守る」という目的に向かって、住民が連帯感を持ち、地域の防災活動を効果的に行えるよう、役割分担を明確にした取り組みを行います。

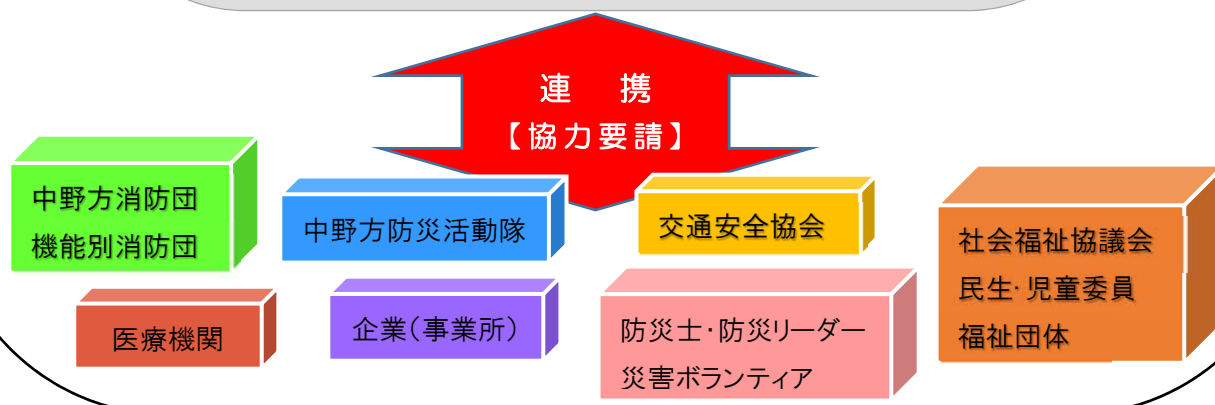
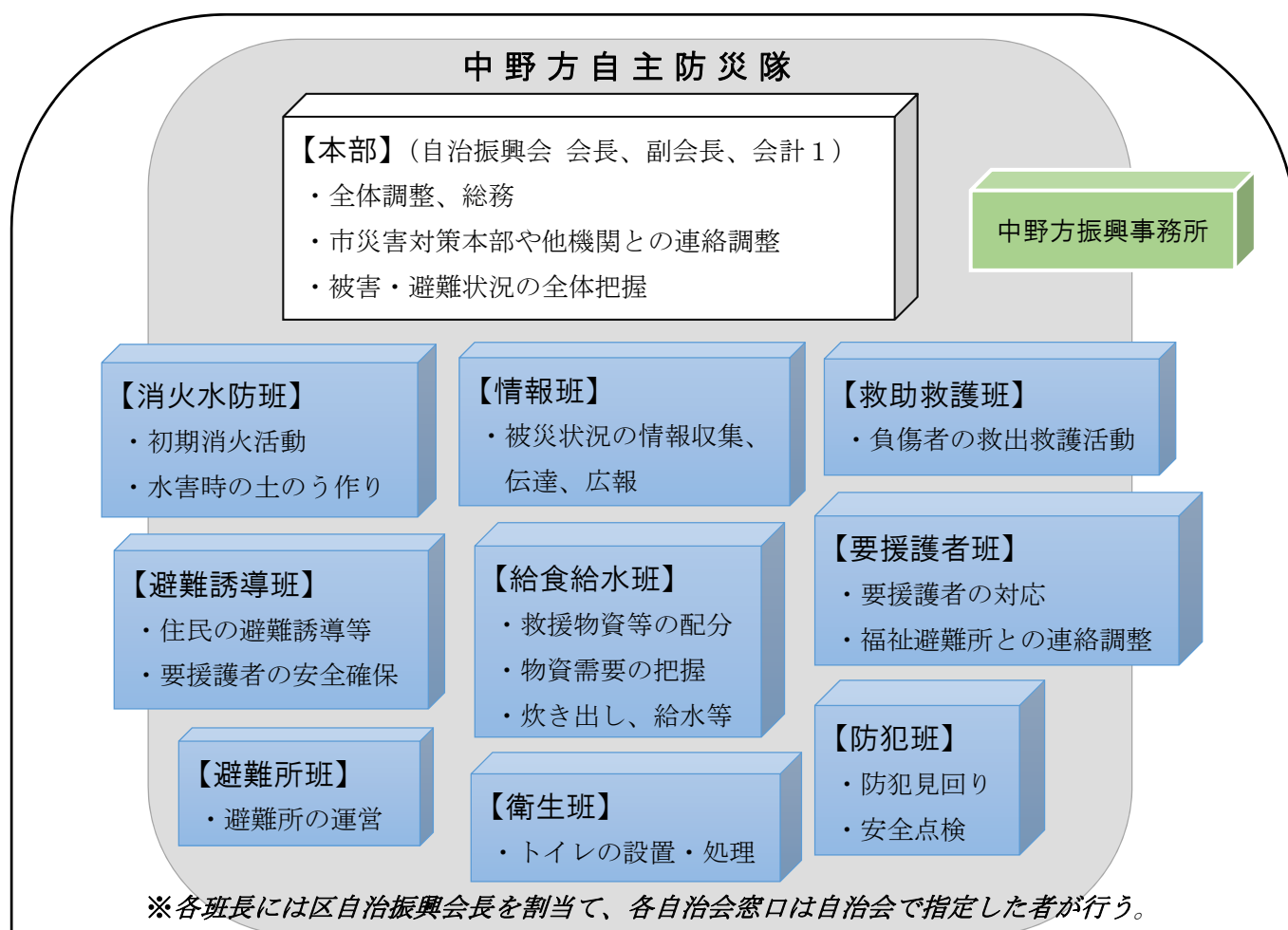
◎ 非常時の活動 1

- ・中野方自主防災隊の本部員及び各班長は、次の事象時、自宅待機または連絡のとれる体制とする。

★大雨・洪水警報以上の発表

★震度5以上の発表

- ・会長は、災害発生時若しくは発生が予想される場合は、(現地災害対策)本部を中野方コミュニティセンター内に設置する。

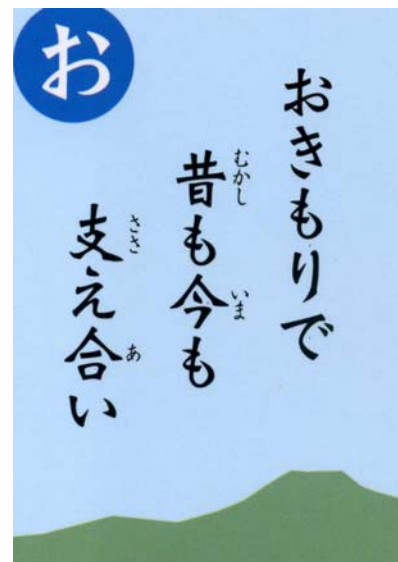


◎ 非常時の活動 2

- ・各種団体等に協力要請した場合

役割	業務内容	担当
本部	<ul style="list-style-type: none"> ・全体調整、総務 ・市災害対策本部や他機関との連絡調整 ・被害・避難状況の全体把握 	自治振興会（会長、副会長、会計1） 中野方消防団本部 振興事務所
情報班	<ul style="list-style-type: none"> ・被災状況の情報収集、伝達、広報 ・避難状況等の把握、安否確認 	○区自治振興会長 中野方消防団 防災士・防災リーダー
消火水防班	<ul style="list-style-type: none"> ・初期消火活動 ・水害時の土のう作り ・建設機械での水防対策 	○区自治振興会長 中野方消防団 機能別消防団 中野方防災活動隊 企業（建設業）
救助救護班	<ul style="list-style-type: none"> ・負傷者の救出救護活動 ・医療機関への搬送 	○区自治振興会長 中野方消防団 医療機関
避難誘導班	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の避難誘導等 ・要援護者の安全確保 	○区自治振興会長 中野方消防団 機能別消防団 中野方防災活動隊 交通安全協会 民生・児童委員 福祉団体
給食給水班	<ul style="list-style-type: none"> ・救援物資等の配分 ・物資需要の把握 ・炊き出し、給水等 ・孤立宅への救援物資等の配送 	○区自治振興会長 社会福祉協議会 防災士・防災リーダー 災害ボランティア
要援護者班	<ul style="list-style-type: none"> ・要援護者の対応 ・要援護者のケア ・福祉避難所との連絡調整 	○区自治振興会長 社会福祉協議会 民生・児童委員 福祉団体

役割	業務内容	担当
避難所班	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の運営 ・避難所間の連絡調整 	○区自治振興会長 振興事務所 社会福祉協議会 民生・児童委員 福祉団体 防災士・防災リーダー 災害ボランティア 企業(事業所)
衛生班	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの設置・処理 ・風呂・シャワー等の対応 ・ごみ処理 ・防疫対策等 	○区自治振興会長 福祉団体 防災士・防災リーダー 災害ボランティア 企業(事業所)
防犯班	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯見回り ・安全点検 ・火防巡視 	○区自治振興会長 中野方消防団 機能別消防団 交通安全協会
自治会窓口	<ul style="list-style-type: none"> ・本部との連絡調整 ・自治会内の被害・避難状況の把握 	自治会が指定した者
災害ボランティア対応	<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティアセンターと連絡調整 ・現地災害ボランティアの指導 	社会福祉協議会 防災士・防災リーダー



◎ 平常時の活動

何を	どのように	誰が
見守りの強化	火防巡視時に防災啓発等の声かけを行う。 【重点項目】	消防団
	独居・高齢者世帯、障がい者世帯訪問時に、防災啓発などの声かけを行う。また、近所に見守りを願う。【重点項目】	区自治振興会 民生委員 福祉団体
	見守りのネットワークづくりを行い、地域ぐるみで見守りに取り組んでいく。【重点項目】	地域協議会 社会福祉協議会
災害危険箇所等の把握	土砂災害や河川氾濫、交通の要所などの危険箇所を確認・把握し、その情報を住民同士で共有する。	地域協議会 区自治振興会 消防団
一時(いつとき)避難所の設定	自治会単位で、一時的に集合して待機する安全な場所を決めておく。また、開錠や開設時の役割も決めておく。	区自治振興会
避難経路の設定	ハザードマップ等により危険箇所を把握し、予め避難する経路を決めておく。	区自治振興会
住民参加の場づくり	災害時での助け合いへの信頼関係を高めるため、積極的に自治会行事などの参加を呼びかけていく。 【重点項目】	地域協議会 区自治振興会
防災知識の普及・啓発	地震・風水害・土砂災害など災害の種類に区別した防災訓練や研修会等を実施し、必要な知識・技術や非常時における組織的な行動を習得する。	地域協議会 区自治振興会 消防団
防災資機材・消火栓の整備・管理	災害時などに機能が十分発揮できるように定期的に点検整備を行う。	地域協議会 消防団
備蓄物資の点検・管理	災害時に必要な生活必需品について、点検を行い、期限の近いものは、炊出し演習等に使用するよう計画的に管理を行う。	地域協議会
連絡網の作成・活用	安否確認を素早く行うため、連絡が取れるよう自治会の世帯情報を整理し管理を行う。	区自治振興会
要援護者の把握	災害時において、安全な場所に避難する際に支援を要する高齢者、障がい者、重篤な傷病者、乳幼児、妊婦、外国人などの世帯情報を自治会班長が中心になって把握しておく。 【重点項目】	区自治振興会

何を	どのように	誰が
防災マップの更新・管理	自治会の防災マップは、上記の情報を反映し随時更新する。 【重点項目】	区自治振興会
減災対策	家屋の耐震化、家具転倒防止など減災対策の呼びかけや必要な支援を行う。	地域協議会 消防団 防災リーダー(防災士)
健全な山づくり	間伐等を推進し、山林の保全を図る。	地域協議会 財産区 水源の森実行委員会
救急救命講習	AEDの取り扱いなど救急救命に関わる必要な知識と技能を、多くの住民が習得できるよう、防災訓練などの機会に実施する。	地域協議会 区自治振興会
自主防災組織の育成・強化	防災士や防災リーダーの育成を行う。また、平日の日中に活動ができる消防団員OB等の活用を図り、常時対応できる自主防災組織体制を整えていく。	地域協議会 機能別消防団 中野方防災活動隊
他地域との連携	隣接の飯地町や笠置町、そして加茂郡白川町と災害時における連携を検討していく。	地域協議会

実践と検証

(1) 防災訓練の実証と検証

実施した防災訓練等の活動結果をC+DAP(Community Disaster Action Plan)フォーマットを利用して検証を行い、改善を図りながら地域の防災力を高めます。

(2) 防災意識の普及啓発と人材育成

地域の住民、団体、企業等が、被害を最小限にとどめ、自らの命と生活を守るために、平素から準備すべき点、災害時や災害後の行動の注意点、高齢者や障がい者などの援護を要する者への助け合いなど、基本的な防災知識に重点をおき普及啓発を行います。

専門的な知識を有する人材や消防団OBなど多様な人材を活用し、地域に密着した防災活動が円滑かつ効果的に実施できるよう組織や人材の育成に取り組んでいきます。

(3) 計画の見直し

防災訓練等の検証結果を踏まえ、P(plan 計画) D(do 実行) C(check 点検評価) A(action 改善)サイクルに従って、定期的に地区防災計画を見直します。



① アイスプレイング ② 災害想定

自己紹介

リーダー/発表者/書記

季節 春夏秋冬

時間 天候

台風 土砂

地震 水害

③

脆弱な部分

自然特性・社会特性

災害を知る

自分たちの地域に
起こりうる災害を
イメージする

河川氾濫

- ・坂折川、コメ沢の谷が氾濫する可能性
- ・山の手入れがされてないため水が出やすい。
- ・100mm/hの雨量観測あり

土砂災害

- ・すり鉢型の地形で、至る所で危険がある。孤立することも想定。
- ・レッドゾーンが心配
- ・井尻辺りの山が崩れる。

断層

- ・赤河断層沿いが危険

地域を知る

自分たちの街の特
性は何か。たとえば
家が密集、水がつか
りやすい、高低さが
多い、消火栓がない

道(避難経路)

- ・避難経路は本当に安全なのか心配。
- ・県道と白川線の間が赤土で崩れやすい。
- ・川沿いにガードレールのないところがあり危険。

避難所

- ・市指定以外の避難所を用意している地区もある。
- ・一次避難が出来なければ避難しない地域

防災対策

- ・地域住民が独自に防災計画を作成している。
- ・災害の種類に区別した訓練を実施できていない。
- ・消火栓が使えない。
- ・食べ物、水が身近にあるため災害に備える意識が割と薄い。

家

- ・古い家が多い

人を知る

助ける人や助けら
れる人はどこに。地
区内に活躍できる
人は。たとえば事業
所や工場、コンビニ

人

- ・昼間は若者が少ない
- ・日中、高齢者が多い。
- ・昼間はアルナックスの社員が大勢いる(30名程)。

安否確認・連携

- ・援助の必要な人がいま把握できていない。
- ・昔ほど隣近所との関係が親密でない。
- ・各長が不在の時、災害に十分な対応ができない。
- ・他の自治会と災害時の連携について話し合う機会が少ない。

④ 平常時に出来る対応

平時に事前対策・教育・訓練・活動の見直し・人づくり・地域づくり・ことづくり・ものづくり・資金・情報・PR・防災意識向上など付箋をはり、その後カテゴリーごとにまとめてくる。

意識啓発

行事の中で防災を考えていく

おきよりのメンバーによる防災訓練を行う。

転倒防止対策

防災教育
小さいうちから機会をとらえて伝えていく。

指定避難場所
以外の安全な避難場所の確保

防災のための山づくり
谷の見回り

人・組織づくり

消防団は平時
町内に4名いる。

中野方防災活動隊は40名いる。

安否確認・要配慮者支援

消防団の見回りを昼間行う。

独居老人宅の把握と訪問による現状把握

コミュニティ内の人員の確認をしておく。

⑥ 振り返り(フェーズごとに見直し)

災害前

初動

応急・復旧・復興

防災協働社会をめざして自分たちの地域は自分たちで守る取り組み
地区防災計画。

発表

⑤

実践と検証(具体的なプランや訓練を記入しましょう)

災害時に①何が必要②誰が何を③自分たちでできること④何を考えておくか⑤協働できることを記入する。

①

地域ぐるみのネットワークづくり(見守りの充実)

②③

班長さんが情報を集約する仕組みをつくる

②③

新聞配達員などに声をかけてもらう。

②③

ご近所さんに見守りをお願いする。

④

自治会の班長の意識を高める。

⑤

要援護者のリストを同意を得て作成しておく。